

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立東大阪支援学校 高等部（知的障がい・肢体不自由） 小、中学部（肢体不自由）
取り組む課題	児童・生徒の学力の充実・児童生徒の自立支援
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業等における図書室利用状況の増加 ・ 年間の本等の貸し出し数の増加 ・ DAISY 図書・紙芝居・パネルシアター・読み聞かせ等を活用した授業や休み時間等の図書室利用件数の増加 ・ センターの機能を発揮した学校外支援件数の増加（地域連携と情報発信）
計画名	BOOK FOREST ～おはなしの森～ プロジェクト [さまざまな障がいや発達段階の児童生徒に応じた読書環境の基礎的環境整備]

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 子どもの障がいに応じた支援を図るための、教員の専門性の向上と授業改善の工夫 (2) ウ 表現力を高め、創造力を豊かにする読書環境の充実と、子どもの主体的に「生きる力」を育む読書活動の推進。</p> <p>4 関係機関との連携強化による開かれた学校づくりと支援学校のセンター的機能の発揮 (1) 支援チームで巡回相談や教育相談や講師派遣を展開し、障がいのある子どもが地域で学ぶ体制づくりを推進。</p>
事業目標	<p><u>児童生徒一人ひとりの自己肯定感の向上と生きる力を高めるための読書活動・読み聞かせ活動ができる基礎的環境整備</u></p> <p>「第3次大阪府子ども読書活動計画」の基本方針に基づき、本に親しみ読書の楽しさと大切さを知り自発的な読書活動や読み聞かせ活動を行うことができる環境整備に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重度重複の障がいのある児童生徒が様々な感覚を使って読書活動・読み聞かせ活動できる「おはなしスペース」の整備。 2. 様々な障がいや発達段階の児童生徒に応じた書籍（DAISY 図書や視聴覚教材を含む）の準備と読書活動の推進。 3. 読字に困難がある印刷物障がいの児童生徒のためのマルチメディア DAISY 等の読字支援アプリによる読書支援。 4. ページをめくることが困難な運動障がい児童生徒のための DAISY 図書・電子書籍と自助具等を組み合わせた環境設定。 5. 書画カメラ等を導入した視覚支援によるグループ学習の推進。 6. 地域の幼稚園、小学校、中学校、高等学校等に在籍する「印刷物障がい」等の幼児・児童・生徒に対する相談支援体制の構築
整備した 設備・物品	学校図書室改修工事・電動スクリーン・ホームシアターシステム 絵本（DAISY 図書や視聴覚教材を含む）・タブレット端末・書画カメラ・大型人形劇舞台
取組みの 主担・実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総務 教頭 2 名 ・ 事務 事務長 ・ 基礎的環境整備・業務等統括 首席 3 名

	<p>次のようなチームに分かれて取組みを進める。</p> <p>① 教務部・研修部 ② 自立活動部・文化情報部・生活指導部 ③ 生活指導部 ④ 支援部・進路指導部 ⑤ ボランティア活用等 ⑥ 授業等における活動推進（各学部主事、学年、担任団）</p>
<p>本年度の取組内容</p>	<p>1. 他機関との連携 ・大阪府立中央図書館：昼休み読み聞かせ会(年間3回)、図書への団体協力貸出、図書館見学</p> <p>2. 校内の取組みについて ・児童生徒会主催昼休みの読み聞かせ会(年間5回) ・私のおすすめ図書[高等部生活課程国語科] ・保護者へのデジ図書の貸出開始(家読の取組み) ・デジ図書を校内パソコンからアクセスし授業に活用 ・図書室の図書を使用する読書感想画コンクールへの出品</p>
<p>成果の検証方法と評価指標</p>	<p>① 学校教育自己診断アンケート(保護者・教員向け)による評価 (平成27年度の肯定的回答：保護者38%・教員43%)</p> <p>② 児童生徒への聞き取りを含むアンケート評価</p> <p>③ 活用状況調査 〔現在は、車いすから降りて自由に本や視聴覚教材を活用できる環境が整っていないため室の活用が少ない。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改装後の授業日数等図書室利用状況を前年度26.3%から、整備後初年度80%をめざす。 (H29年度の学校図書標準達成状況は小学部55.4%、中学部34.0%) ・蔵書数を増やし年間の本の貸出冊数を前年比50%の増加をめざす。 ・学習障がい等の児童生徒のタブレット利用を進める。 ・副読本の電子化に関する相談が1件あった。それを10件以上に伸ばす。
<p>自己評価</p>	<p>① 学校教育自己診断アンケート(保護者・教員向けによる評価) ⇒平成30年度の肯定的回答：保護者43%教員78%に上昇……………(○)</p> <p>② 児童生徒への聞き取りを含むアンケート評価 「空いている時間にも行き、色々な本を見た。床に下りられるのがよかった。」・「お昼休みに使った。」・「クラス活動で使った。」・「学活で読書をした。」・「たくさん行って、借りた本をクラスのみみんなで読んだ。」等、肯定的意見がほとんどであった。 今後の図書室への要望としても「開館日を増やしてほしい。」・「絵本読み聞かせ会をもっとしてほしい。」・「生活課程向けのイベントをしてほしい。」等、図書室への関心の高さがうかがえた。……………(○)</p> <p>③活用状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間における図書室利用 平成27年度 26.3% ⇒ 平成30年度 72% 授業だけでなく数字には表れていない児童生徒の居場所作りとしても活用されている。 授業日数等図書室利用状況では100%……………(◎) ・貸出冊数 平成27年度 124冊 ⇒ 平成30年度 338冊……………(◎) ・学習障がい等の児童生徒によるタブレット利用が積極的に行われた。……………(○) ・副読本の電子化に関する相談が保護者より4件あった。……………(△)
<p>事業のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジ図書についての地域の小中学校からの問い合わせは3年間で1件のみであった。地域への発信を進め、校内外への活用につなげていく。 ・おはなしの森プロジェクトは、絵本を中心としたものであったが、YA(ヤングアダルト)向けの図書の充実をどうしていくか。現在の図書室の広さに限りがあるため、第2図書室などの設置の検討などを検討していく。 ・ボランティアを中心としたおはなし会は絵本中心の内容であり、YA(ヤングアダルト)にも向けた読書意欲を高める取組みも検討していく。 ・学校図書館の活動は、司書教諭や校務分掌での係だけでなく、全職員で当たらなくてはならない。学校全体を巻き込んだ読書運動をどうやって展開していくかということも課題となる。